

## 現場作業、遠隔でチェック 新潟のガゾウが支援システム

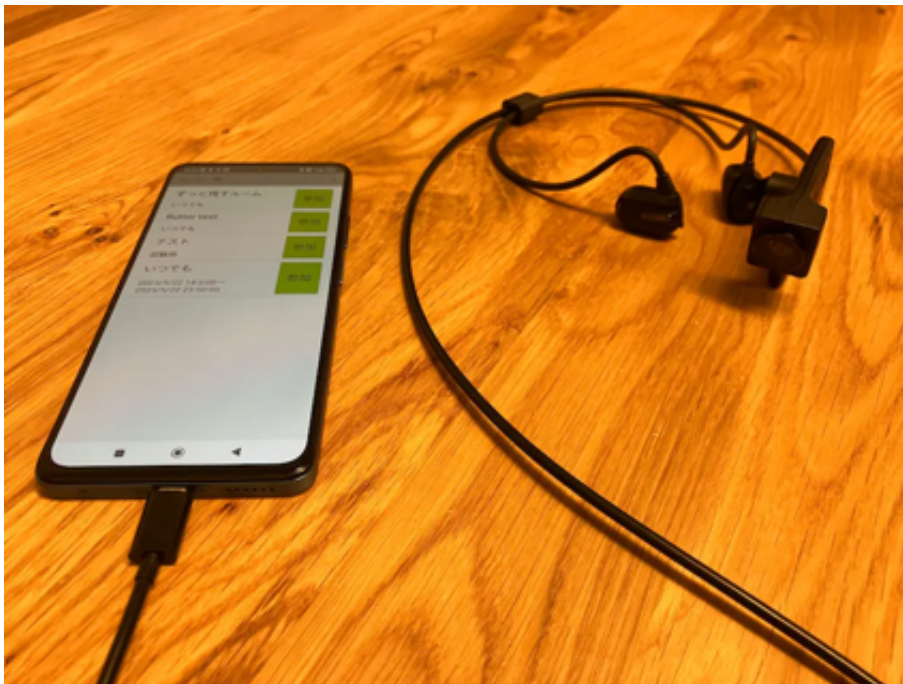
2023/6/20 5:00 | 日本経済新聞 電子版



端末を装着して仕事する作業員。電気工事などの現場での利用を想定する

画像処理機器・システム開発のガゾウ（新潟市）は、工事現場などの作業員を遠隔で支援するシステムの販売を始めた。経験の浅い社員らの仕事ぶりを映像で記録し、離れた場所にいるベテランがパソコンを通じてリアルタイムで確認しながら助言を行う。複数の現場を効率よく監督でき、コスト削減や売上高の増加につなげてもらう。

このほど遠隔作業支援システム「リモサポ」の販売を始めた。カメラとマイク、スピーカーの付いた眼鏡型のウェアラブル端末を開発。カメラは、作業員が見ている様子と同じ状況を遅延なく映し出せる。複数の異なる現場にいる経験が浅い作業員に端末を着用してもらい、ベテラン社員が遠隔地からパソコンを通じて様子を見ながら、一括で各者を支援する利用を想定している。



眼鏡型のウェアラブル端末。カメラ映像や音声のやりとりを通じて支援する

電気工事や製造業などの中小企業での需要を見込んでいる。中小企業では、経営者自身が現場に赴いて中心的な作業を担うケースや、ベテランが少ないといった課題があるという。現場が複数にわたる場合、移動に時間がかかりコストも増える。システム導入で、新人など経験の少ない社員でも円滑に作業できるようにし、複数の現場を並行して進めて売上高の増加につなげてもらう。

新潟市内の電気工事会社に試験的に利用してもらったところ、効果があったという。新潟から群馬県に行き、新人だけが現場に行き、ベテラン作業員が遠隔でそれを支援。1日のコストを約3万円削減できたほか、ベテラン作業員が遠隔支援で3つの現場を並行して監督した結果、1日あたりの売上高が3倍程度になったという。

システムには任意のタイミングで画面の撮影や録画ができる機能もつけた。作業を簡単に記録でき、報告書作成の簡略化などにも役立つとしている。

ガゾウはまず、新潟県内の企業を中心に売り込む考えだ。導入を希望する企業の業種や作業内容に合わせて、適切な利用方法を指導するコンサルティングも合わせて販売する。金田篤幸社長は「システムをソリューションとして、顧客の売り上げを増やす方法を一緒に考えたい」と話す。4年後までに2億円規模の売上高を目指したい考えだ。

システムの開発には、にいがた産業創造機構（新潟市）の助成金を活用した。今後は新潟市などが手掛けるDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進を通じた新事業創出を後押しする「DXプラットフォーム」と連携した新規事業開拓も進める予定だ。

ガゾウは人の視線を解析するシステムや、画像処理に使うカメラなど、画像処理技術に関する機器・ソ

フトウェアの開発・販売を手掛ける。2017年に設立した。

(鈴木遊哉)

## 地域ニュース

全国各地の最新記事やおすすめコラムはこちら

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

**NIKKEI** Nikkei Inc. No reproduction without permission.